

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケセラキッズ（多機能型児童通所施設）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～ 令和7年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、学校教員、音楽療法士、保健師、社会福祉士など発達障害のあるお子さんだけでなく定型発達のお子さんへの関わりが豊富で、障がいという言葉にとらわれない本人に関わり、保護者様を支援できる	お子さんがいつかおとなになったときに社会の中で豊かな毎日を送れることを目標に「障がい」や「自立」「自律」についての理解を深めている。多職種での情報共有、意見交換をいねいにおこない、複数の視点を療育にとりいれている	スタッフ間での情報共有、意見交換をよりいねいにおこなっていく。こどもたちの将来の姿にむすびつく療育を展開するためにより研鑽を積んでいく
2	地域の病院小児科や発達障害診療連絡会との連携があり、医療との情報共有によって療育プログラムを展開している	主治医への報告書や情報交換、病院でのカンファレンスなどへの参加を積極的におこなっている。医療での知見や意見、指導を保護者様と相談のうえで療育にとりいれている	発達障がいに関する医学的知見やエビデンスについてより学んでいき、療育にとりいれていく。医療とはより密接に連携していく
3	発達状況の評価、二次障害への対応などをおこないながら特にコミュニケーション支援を得意としている。PECSによるコミュニケーション指導、UCLA式ペアレントトレーニングなどエビデンスのある方法論を取り入れ、登園渋り、不登校への対応について園や学校と連携して積極的におこなっている	こどもの心理状態（時には精神症状）を的確に理解し、必要な対応を検討している。保護者様、本人と相談しながら、登園渋りや不登校などの社会的不適応への対応について具体的に相談している	PECSについてのスタッフのトレーニングを継続する。グループでのペアレントトレーニング開催を検討する。園や学校への関わりは積極的に継続する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別単独支援のため、スタッフの状況によっては利用を制限せざるを得ない場合がある	施設基準は満たしており児童指導員は加配の状況ではあるが、個別単独支援のスタイルなのでやむを得ない状況	できるだけ多くのスタッフがひとりのお子さんに関わる機会を持ち、スタッフの欠勤などに対応できるようにする
2	理学療法士、作業療法士など専門性を持ったスタッフが不在である	的確なアセスメントのためには必要な専門性とする	非常勤体制も含め採用を検討していく
3			